

現場訪問

●ニッポンレンタカーサービス(株)

従業員一人ひとりに安全運転を願う  
気持ちを込めてもらおうために

ニッポンレンタカーサービス(株)は、日本を代表する鉄道・バス・航空会社などの基幹交通機関の賛同を得て、国内最大級のサービスネットワークを展開しているフランチャイズシステムのレンタカー会社である。

全は元より、従業員の安全運転教育に力を注いでいる。交通事業者の社会的責任として、深刻な経済情勢の中、安全運転教育に対する経費を削減せず、むしろ増やしているという。

狭い場所での車庫入れ・縦列駐車のコツを身につける受講者。運転に慣れていないお客様にわかりやすくアドバイスするためのポイントも学ぶ



安全な車間距離のとり方を考えるための反応制動



夜間走行では、対向車の前照灯の光の眩しさのために前にいる歩行者が見えなくなる蒸発現象などを体験

従業員への安全運転教育を重視している背景を、ニッポンレンタカーサービス(株)の平田新吾会長は次のように話す。「以前は、OJTによる先輩社員からの現場研修が主だったため、現場では適切な指導ができていないケースもありました。これでは、お客様に誤った運転方法を伝えてしまうことにもなりかねません。そこで、全国の営業所の所長クラスを鈴木鹿サキット交通教育センターに集めて、安全運転講習会を行うことにしました。お客様に安全運転をしていただく



ふんわりアクセル「eスタート」など、教室で学んだエコドライブに効果のある運転方法をコースで試し、実際に燃費が向上していくことを受講者が確認する

くために、従業員一人ひとりに安全運転を願う気持ちを浸透させるためです」。

今年の安全運転講習会は9月15日、16日の両日に開催され、34名の受講者は安全な車間距離のとり方、エコと安全を両立させる運転方法、狭い場所での運転、夜間の安全走行のポイントなどを学んだ。

毎年、受講者の激励に訪れているという平田会長は、参加体験型の教育によって、事故を防ぐための運転を受講者自身が考え、危険予測能力を高めることができる鈴鹿のカリキュラムを評価する。「実技を通して自分が実際に体験することで、お客様や現場の従業員に適切なアドバイスができるはず

です」。この他、同社は2007年12月より各地域の自動車教習所など、全国の交通安全教育施設の協力を得て、アルバイトを含めた全従業員に実車を使用した安全運転教育も実施している。これまでに全従業員の9割に当たる約2700名が受講した。



ニッポンレンタカーサービス(株) 平田新吾会長

「お客様を送り出す時には必ず『無事故でお帰りください』と声をかけています。その言葉を全従業員が常に気持ち込めて伝えるようになることが、お客様の安全確保につながると考えています」と平田会長は力強く語った。

TOPICS

●2009トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉  
「組織内交通事故防止は環境が大事」



パネルディスカッションの模様

神田ホールディングス(株)品質安全管理室課長代理が「セーフティアドバイザーの誕生」をテーマに、社内にてセーフティアドバイザーを養成し交通事故防止活動を行っている様子や、エコドライブ運動、運行管理者研修会、事故再発防止研修会、飲酒運転撲滅活動など様々な取り組みを行っている事例を紹介した。

8月28日、本田技研工業(株)和光ビル1階で、「09トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」が開催された(主催:交通安全センター・レインポー埼玉・和光)。今年のテーマは「組織内交通事故防止は環境が大事」。

開会式では主催者を代表し河野光彦(株)レインポーモーターズスクール代表取締役社長が挨拶。村山幸央・埼玉県警察本部交通部交通部長が来賓挨拶を述べた。

続いて、春日伸予・芝浦工業大学工学部教授による講演「安全運転に必要なマネージメント」特に心理的側面から」が行われた。春日氏は、安全運転に必要な「気づき」として

- ①自分の特性、②危険の具体的な内容、③自分の特性と危険との関係、④対処方法の4つを挙げ、気づきを促すことで自分をコントロールする能力が高まることを説明。気づきを促すエコドライブ活動の成功例を紹介した。また、性格特性やストレス状態といった心理的要因が気づきの効果が薄れる原因となることを伝えた。

次に事例発表が行われ、土田義章・



澤登真珠枝・埼玉県警察本部交通部交通安全企画課課長補佐埼玉県警部



生田泰博・ニッポンレンタカーアーバンネット(株)車輻部事故防止対策係長



野村邦丸・(株)文化放送編成局アナウンス部次長



土田義章・神田ホールディングス(株)品質安全管理室課長代理



春日伸予・芝浦工業大学工学部教授

NEWS REVIEW

1 ●(財)交通事故総合分析センター 第12回交通事故調査・分析研究発表会  
交通事故に関する各種調査・分析研究を発表



10月1日、アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区)にて(財)交通事故総合分析センター主催の「第12回交通事故調査・分析研究発表会」が開催された。この研究発表会は、同センターが行った交通事故に関する各種調査・分析研究の成果を交通安全対策に活用してもらうことを目的に毎年行われている。小田村初理事長による開催挨拶の後、以下の5つの研究発表が行われた。

- 1)「事故分析からみた車両の安全対策」米澤英樹・

- 車両分科会会長
  - 2)「歩行者の傷害程度に影響する要因の検討」吉田伸一・主任研究員
  - 3)「コンピュータを用いた事故再現による右直事故の分析」木下義彦・前主任研究員(現・(株)本田技術研究所四輪R&Dセンター主任研究員)
  - 4)「四輪車の電柱への衝突事故分析」鈴木陽介・研究員
  - 5)「人的要因からみた長寿ドライバーの交通事故の特徴」三井達郎・研究部担当部長
- 「人的要因からみた長寿ドライバーの交通事故の特徴」では、長寿ドライバー(75歳以上)は信号無視やブレーキ操作不適による事故を起こしやすい傾向があることが報告された。また、信号無視の原因として「考え事など他に気をとられたため」、ブレーキ操作不適の原因として「病気により足が思うように動かなかった」などが挙げられた。

2 ●第41回全国白バイ安全運転競技大会  
安全運転技能の最高峰を全国の白バイ隊員が競う

10月10日、11日の両日、自動車安全運転センター安全運転中央研修所(茨城県ひたちなか市)にて第41回全国白バイ安全運転競技大会(主催:警察庁)が開催された。この大会は、全国の白バイ隊員の安全運転技能の向上、士気の高揚及び隊員相互の融和団結を図ることを目的として、昭和44年より毎年実施されている。今年は、47都道府県警察等から、女性隊員38名を含む

188名の選手が参加。2日間で計4種目の競技で熱戦が繰り広げられ、延べ約6700人が観戦した。

主な結果は以下の通り。

- 団体の部  
(第1部・9都府県警察) 優勝/千葉県、第2位/愛知県、第3位/埼玉県  
(第2部・38道府県警察等) 優勝/群馬県、第2位/鹿児島県、第3位/大分県
- 個人競技の部  
(男性の部) 優勝/笹野裕也(千葉県)  
(女性の部) 優勝/大辻綾美(兵庫県)

